

カルメル 霊性センターニュース



2017年6月

332号

目次

事務局移転のお知らせ	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	19
東京	20
京都	23
名古屋	24
北陸	25
諸所の企画案内	27
編集後記	37

霊性センターニュース事務局

移転のお知らせ

愛読者の皆様

先月号でお知らせいたしましたように、『カルメル霊性センターニュース』の事務局は、来月より、上野毛修道院から宇治修道院に移転することとなりました。

すでに 2017 年度の年間購読を申し込まれておられる方もいらっしゃいますが、これから『霊性センターニュース』の購読を希望される方は、新事務局の方へお申し込みください。

なお、冊子の郵送は、基本的に申し込み翌月から 12 月までとなります。

例えば、6 月申し込みの場合は、7 月号~12 月号（8 月は休刊）となり、この場合の献金は、ご希望の 5 ヶ月×250 円程度となります。これからご購読を希望される方は、以下の所へ郵便か e-mail でお申し込みください。

《郵便でのお申込み》

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「霊性センター事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

《e-mail でのお申込み》

メールアドレスは、混乱を避けるため、従来と変わりません。

tokyo@carmel-monastery.jp

なお、献金振込先は、今年度一杯は、混乱を避けるため、従来の振替口座を使用いたします。

郵便番号口座： 00110-4-297250
加入者名： カルメル霊性センターニュース

『カルメル霊性センターニュース』編集長
九里 彰神父

心の泉





第三卷

第五章 神の愛の感嘆すべき効果

5 愛を求める祈り

《あなたを愛し、あなたへの愛に溶け入り、浸りきることが、どれほど甘美であるかを、私が内なる心の口で味わうことができるように、私の心を広げてください。私はあまりの熱心と驚嘆のために、われを忘れるほど、この愛にいだかれたい。私は愛の歌をうたいます。より高くあなたに従います。私の心は聖なる愛に喜び勇みつつ、あなたをたたえて果てよう。自分自身よりもあなたを愛し、あなたのために自分を愛することができますように。あなたから輝き出る愛の掬が命じる通りに、あなたが真実に愛しておられるものを、あなたにおいて私もまた愛することができますように。》

6 主

《愛は敏速であり、真実であり、敬虔であり、快活であり、歓喜に満ちており、雄々しくて忍耐強く、賢明、寛容で勇ましく、自分の利益を求めない。人が自分自身を求めようとしはじめる時、愛は凋落しはじめる。愛は慎重、謙遜、剛毅、素直で、軽薄なはかないことにこだわらず、節制、貞潔で、今期があり、柔和で、五官を慎む。愛はまた、従順で、目上に服従し、自分自身は、卑しく軽蔑されるべきものだと考え、神には信心と感謝をもち、霊的な乾燥状態にある時も、つねに神に信頼し、神に希望を置く。苦しむことなく愛に生きることは、不可能なことだからである。

愛するがためにすべてを忍びながら、そのみ旨を果たす覚悟のない者を、愛をもつものとは呼べない。愛をもつ者は、愛する相手のために、辛いことや苦しいことを甘んじて受け、どんな不幸が起こっても、愛する者から離れようとしない。》

17-6月

呼ばれています

“聖なるもの” になるように



私たちに与えられた聖霊によって、

神の愛がわたしたちに注がれている ロマ5・5

聖霊は私たちを愛である神のいのちそのものにあずからせてくださいます。私たちの心にもたらすこの貴いたまものは、神の慈しみの愛への信頼にみちた関係です。この関係の結果として私たちは他の人々へ新しいまなざしを向けることができます。聖霊は私たちがキリストの目をもって見、キリストと同じように生涯を生き、キリストと同じように人生を理解するように教え、導いてくださいます。



愛である聖霊が、その愛の激しい炎によってあなたの心を聖三位が歓喜される小さなかまどとしてくださいますように。

* 三位一体の聖エリザベット

主が言われるように（ヨハネ4・14）聖霊を信じるものはその人のうちから生きた水が川となって流れ出るようになり、この人を通して聖霊は広が

っていきます。いのちと光は聖霊によって流れ出ますが、源である神の水門が開かれるのは私たちの信仰によってだけです。 ** 福者マリー=ユージェヌ神父

6月は聖霊降臨4日にはじまり、三位一体11日、キリストの聖体18日、イエスのみ心23日、洗礼者聖ヨハネの誕生24日、聖ペトロ聖パウロ使徒29日と大きな祝日を祝います、その歓びと祈りのうちに、

伊従 信子（いより のぶこ）

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『いのちの泉のほとりにて』伊従編訳。ドン・ボスコ社

** 『神と親しく生きるいのりの道 マリー=ユージェヌ神父とともに』伊従訳、聖母文庫

コトことば

くのり
九里 彰

私が大変お世話になった方の中に、ドミニコ会の故押田成人神父がいる。大学院時代、キリスト教の世界に深く入り込み、洗礼を受けようか受けまいかと迷っていた時、そっと後押しをしてくれたのが神父である。ことさら洗礼のことについて話したわけではない。高森草庵を訪れ、師の姿に触れているうちに、何とはなしに洗礼を受ける決断がついたのである。

師の宗教的洞察の鋭さ・深さは、たとえば、理念ことばとコトことばの区別に垣間見られる。コトことばの世界は、意識以前の存在世界であり、本来の宗教的靈的世界を指している。理念ことばは、通常の意味を持った言葉で、情報レベルから学問科学のレベルまで、現象を説明する言葉として広く使われている。

若き師がカナダで神学を勉強していた時のエピソードは、この二種のことばの区別を雄弁に物語っている。ヨハネ福音書の冒頭、「はじめに言があった。」から、「言葉」について詳細な説明をするドミニコ会の大博士に対し、師は授業中、「ふーん」といった生意気な態度を取っていたようである。

（腹を立てた先生は、授業後、）僕を廊下の隅に呼んで、「あんた、言葉についてあれ以上分析の仕方があると思うか」と聞いたんです。

「分析の仕方があるかどうか、私は知りません。ただどねえ、神父さん。夕ぐれの花に揺れているバラの花は、本当に私に言葉を語りますよ」、こう言ったわけです。そうしたらね、「うーん、そういうふうを考えているならいいや」って、行っちゃったんですね。彼もハツときたらしいんだナ。（『遠いまなざし』地湧社、111頁）

神との交わり、一致、変容を説くカルメルの靈性も、頭のことばではなく、コトことばのレベルで捉えられるべきものだと、つとに感じている。なぜなら、意識の世界を超えたコトことばの世界こそ、聖靈の息吹く世界であり、神と靈魂が親しく交わる場だからである。

風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。靈から生まれた者も皆その通りである。（ヨハ3・8）

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (114)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「バラやカーネーション」

十字架のヨハネは、花によって神に感謝を捧げることが好きでした。「ご聖体にバラやカーネーションを捧げる人々に感謝の言葉を述べ、また彼らに、そのような行為によってどれほど神をお喜ばせることになるかを教えていました」。ヨハネ修士は、祭壇のためのバラやカーネーションを、また清潔さを愛しました。彼の仲間の一人は、こう述べています。「彼は、神への礼拝については、とても気を遣い、きちんとしていました。教会をととてもきれいに整え、とても清潔に保つことを好みました。特に祭壇はきれい飾られ、清潔でした」。セゴビアにおけるヨハネ修士の目下の者は、こう証言しています。「彼は、神への礼拝をととても好みましたので、祝日には、祭壇や教会を整えるために降りてきました。…すべてがととてもきれいに飾り付けられ、きちんとしているのを見ると大いに喜びました。ご聖体の祭日には、彼の愛と信心はととても盛り上がり、これらの日々には修道院ミサを非常に敬虔に捧げました」。



「準典礼的な踊り」

降誕節の時、ヨハネ修士は、幼子を生んでくださった神の愛のやさしさについて修士たちと話をしていました。抑えがたい思いが彼を襲い、「その季節のすべての喜びの源である幼子イエスが置かれていたテーブルへと向かいました」。彼は幼子を腕に抱き上げ、とても上手に熱を込めて踊り始めました。その踊りの時に歌った短い詩は次のようなものです。

わたしの やさしい 幼きイエスよ
愛が 私の命を奪うのであれば
今すぐ そうしてください

聖霊降臨の主日

今日の福音は復活の日曜日の晩に弟子たちの前に現れたイエスが、聖霊降臨について予告し、イエスが天の御父から受けた使命を、弟子たちが継続するように招いたことと関係しています。そしてイエスは息を吹きかけ、それができるように彼らを力づけ「聖霊を受けなさい」と言われました。聖霊降臨の日にイエスは弁護者を送るという約束を実現されました。聖霊の賜物は、すべての国に福音を告げ知らせるという使命を実現させてくれます。今日の福音はイエスが使徒たちに罪をゆるす権威を与えたことも伝えています。「聖霊を受けなさい。」この素晴らしい言葉は聖霊の現存とゆるしの秘跡における、ゆるしの賜物とが固く結ばれていることをしめしています。しかし、さらに豊かな意味も含まれています。それは、非常に独断的で復讐心に燃えることの多い現代世界に、私たち一人一人がゆるしの使者になれるということです。

聖霊が私たちのうちに住まわれるとはなんと美しいことでしょう！聖パウロはコリントの教会の人々に、「あなた方は、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちのうちに住んでいることを知らないのですか」（一コリ 3.16）と言って、そのことを思い起させました。聖霊こそが私たちと神の関係を深めるのです。神が「アッバ父よ」と叫ぶ御子の霊を、私たちの心に送って下さった（ガラ 4.6）。」「私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれている（ロマ 5.5）。」「聖霊によらなければ、だれもイエスは主であるとは言えない（一コリ 12.3）。」聖霊の力によって、私たちも教会を通してイエスが主であると知っているのです。

聖霊降臨の日曜日は教会の誕生日です。聖霊こそが、教会を生かし、照らし、導き、聖化するのです。私たちは教会の秘跡を通してイエスを知り、聖霊が教会の秘跡の中心にいるということを知るのです。洗礼、堅信、叙階は聖霊を通して与えられる秘跡的神秘です。もしミサの聖変化の際に聖霊の働きが無ければ、私たちは聖体拝領でイエスと出会うことができないでしょう。罪のゆるしも聖霊を通してあたえられるのです。聖霊は教会の位階の中である人々を司祭とし、罪のゆるしの権能を授けるのです。聖霊は今日も一人一人の司祭の中で働き続けているのです。

(Sr. Paulina)

三位一体

(Dt.4:32~34,39~40;Rom8:14~17;Mt.28:16~20)

祝福された三位一体の神秘は旧約においては啓示されませんでした。神は選民がこのような神秘を受け入れる準備が出来ていないと考えたからです。多神教に囲まれていたので三位一体を知ると彼らの一神教が弱くなる恐れがありました。今日の申命記の個所から、選ばれた民イスラエルがどれほどの特権を受けていたか、神の彼らに対する扱いがどんなに素晴らしいものであったか、そして彼らの善のために掟を守るように仰った事がわかります。しかし彼らは律法を守りませんでした。これは恩知らずなことでした。今の時代、神は聖三位によってご自身を現され、私たちもまた掟を守るように言われています。確かに神は私たちにそれほど多くのことを望んではおられません。心の広いキリスト者なら誰でも掟を守るだけでなく、祝された三位に感謝を表す他の手段をも探すでしょう。

私たちは、それぞれが救いのわざにおいて異なった役割を果たす三位についての経験をしてきました。この三重の活動は私たちそれぞれの中でも続いています。しかししばしばこの神秘を理解できません。聖パトリックは三位一体の観念を表すのに三つ葉のクローバーを用いました。ロヨラの聖イグナチオは一つの音となる三つの音符の例を用いました。水を用いた人もいます。水は蒸気、氷、液体という三つの形態で存在し、一つの水でありながら、三つの違った形をとることが出来ます。

私たちは弱いものですから、しばしばこの世の過ぎ行くものが私たちの考えと行動になり、神と永遠の関心からそれてしまいます。キリストとその掟を忘れ、世に心と精神を支配させてしまいます。しかしながら私たちのような罪人に対してさえ、神の愛の無限性の中に希望と励ましがあります。父と子と聖霊が私たちのすべての弱さを御存知だということを忘れないようにしましょう。三位は人間的弱さを乗り越えようと何度も何度も努力する人がついには三位と共に天国を共有することをご存知です。この可能性は私たちみんなに開かれています。祝された三位は誰も天国から除外しません。天国に入れない人がいるとしたら、まったく完全にその人のせいなのです。

私たちの行為をすべて父と子と聖霊の御名によってすることで聖三位をたたえましょう。

(Beatrice)

キリストの聖体

第二バチカン公会議は、犠牲として聖体拝領はキリスト者の生活の頂点だと宣言します。それは何故でしょう？ 1) 私たちもキリストの奉獻に今このとき現実的な出来事として参加し、その実りを私たちの生活にもたらすことができるから。 2) 御父と御子と聖霊を最も完全な方法で礼拝するよう助けるから。 3) 御体と御血の御父への奉獻において、私たちのキリストとお互いへの愛と一致を強めるから。 4) キリストの受難、死、復活について記念し続け、私たちに隣人のために犠牲を捧げる義務を思い起させるから。聖体は私たちの信仰、希望、愛の神秘です。私たちはなぜ二千年たっても聖体を祝っているのでしょうか？それはイエスご自身が「私の記念として、これを行いなさい」とお命じになったからです。

秘跡と奉獻：イエスは最後の晩餐で聖体を秘跡的な食卓として、また神への奉獻として制定されました。秘跡としては、聖体はイエスご自身のいのちと恵みを私たちに分け与えるための外的なしるしです。「至聖なる聖体の秘跡には、わたしたちの主イエス・キリストの靈魂と神性とに結ばれたからだと血、つまり、全キリストが真に、現実、実態的に現存しておられます。」(カトリック教会のカテキズム 1374) この秘跡によって、パンとぶどう酒の姿で私たちのもとに来られ、人生の旅路を歩めるように強めてくださる復活された主イエスと、私たちは出会うのです。主の食卓で、パンとぶどう酒は、見た目はそのままでも実体はイエスの御体と御血に変容されます。これは全くの神秘です。イエスはこれを不変の定めとしてこれを弟子たちにお教えになったので、私たちもこれを信じます。聖体の秘跡は、イエスの永遠の現存を私たちの魂にもたらしめます。

聖体の神秘は御子の奉獻でもあります。キリストの死と復活を再び示すからです。しるし、象徴、祈りという手段で私たちはイエスの受難と死、復活に与り、血を伴わない方法でそれを現実のものとして味わうのです。これはミサの中心であり、イエスの愛と罪のゆるしの保証です。このいけにえによって、復活の主は祭壇の上に現存され、司祭の手を通してご自身を御父に奉獻されるのです。

私たちはキリストを抱く者、キリストを運ぶ者にならなくてはなりません。聖体拝領によって私たちはマリアのようにキリストを抱く者になり、家庭に職場にキリストを運び、愛と憐みとゆるしと謙遜と奉仕をもたらす使命を受けるのです。

(Sr. Paulina)

年間第12主日

(マタイ10:26-33)

今日のみことばは、イエスが12人の弟子を呼び寄せて使徒とされ、人々のあらゆる病気や患いを癒すため、汚れた霊に対する権能を授けて派遣するにあたり、使徒たちに語られた内容の一部です。

使徒たちは師であるイエスから離れ、方々の町に神の福音を告げ知らせに行くこととなります。その様な中で、イエスは使徒たちに幾つもの命令をお与えになりましたが、「人々を恐れてはならない…」「明るみで言いなさい…」「屋根の上で言い広めなさい…」と使徒たちを励まします。

イエスによって呼び集められた人たちは、ファリサイ派や律法学者たちや、宗教的な指導者たちとは異なり、多くは貧しい人々でした。その人々があちこちの町や村々に、神のことについて話すため、宣教のため派遣されてゆく。師であるイエスを離れて…。

使徒たちには大きな不安や恐れがあっただろうと思います。その不安を払拭するため、今後の困難や苦難の折、神に信頼して歩むことができる様に、イエスは言葉で力づけて送り出して下さいました。

神は全てのことをご存知でおられる。仮に隠されていても、たとえ覆われていても、全て知っておられる…。私たちとともにおられる、神のまなざしの中で、ご保護の中で、歩んでいる私たちです。一羽の雀さえ、神のお許しがなければ地に落ちることはない。ましてや雀よりもまさっているあなた方は、神から保護されないことがあろうか…。

神に信頼して歩みなさい、そして宣教に出かけなさいと、弟子たちを力強く励まして、送り出すイエス。その様な中で使徒たちが求められていることは、イエスが使徒たちに語って下さったことを人々の前で公に語ること、人々に公に言い表すことです。

私たちも、みことばを通して呼び掛けておられる「神の言葉」に耳を傾けましょう。神に信頼して歩みましょう。日々生きる場、人々と出会う場で、生活を通して、行いを通して、言葉を通して、人々に神様のことを告げ知らせてゆくことができますように。私たちが神の御元に召された時、イエスが天の御父の前で、「わたしの仲間である…」と言い表して下さいます様に。

(Fr. 古川利雅)

糸巻き棒からペンへ(21)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え



エドゥアルド・サンス OGD

その時代の郷土の生活を、ヴェルデ・ガボンの騎士が見事に描いています。すなわち、ドン・キホーテは、次のように紹介されています。「私は中より上の郷土で、名前はドン・ディエゴ・デ・ミランダと言います。妻と息子たち、友人たちと共に過ごしています。私の鍛錬は、狩猟と釣りです。70冊以上もの本を所有しています。ロマンス語やラテン語の本、中には歴史の本や信仰の本もあります。時々友人たちと、しばしば自分だけで友人たちを招待します。毎日ミサに与り、貧しい人々に財を分かち、聖母への深い信心を持ち、主なる神の無限の慈しみに信頼し、絶えず告解しています」。

これが、アビラでのテレジアの叔父や父や兄弟が従った生活様式です。出自をごまかし、持っていない郷土の身分を装い、(他の人々の名誉を受け取り)「名誉ある者」になろうと努力したことが目を引きます。このような環境の中で、テレジアは成長しました。ここから、彼女のほとんどすべての恩人が商人であったこと、多くの貴族が彼女を信用しなかったこと、彼女が社会の因襲尊重に対し大変批判的で、みな名誉の奴隷となっていることについて多くを語っていることが理解できます。

当然のことですが、『自叙伝』の中で、彼女は郷土の肩書を獲得するための家族の訴訟については何も触れていませんが、また(昔のすべての伝記作家とは反対に)両親が貴族であるとも言っていません。ただ「(両親は)徳にすぐれ、神を畏れ、…貧しい人々に対して大きな愛徳を持ち、きわめて誠実な性格でした」(1, 1以下)とあります。ある時、グランシアン神父は聖女の高貴な家系について話し始めました。彼女は「その話題を取り上げたため、私にとっても腹を立て、自分はカトリック教会の娘であるだけで十分であり、たとえこの世でもっとも卑しい人々や身分の低い平民や改宗したユダヤ人の子孫であったとしても、それより罪をただ一つでも犯したことの方が自分にとってより重大なことと感じられると言いました」。さらに、彼女は、セビリャの創立について話す時、その地で「家系」に由来しない名誉が与えられたことをようやく認めています。「ごらんなさい、娘たちよ、神の御手を。わたしが名誉を受けたのは、私が名門の出だからではないのです」(『創立史』27, 12)。

(続く)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介いたします。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2017年04月17日

エジプトの跣足カルメル修道会より急報

エジプトの聖週間は殉教の血で始まりしました。
タンタ市のコプト教会への襲撃事件が伝えられた時、私たちはカイロのシュブラにある聖テレジア教会の聖堂で枝の主日のミサを皆でささげていました。私たちは皆に恐怖を引き起こさないように、このことは伝えませんでした。この出来事は、天国の殉教者の数を増やし、地上の使徒の数を減らす痛ましいニュースです。そして虐殺は、その後アレクサンドリアの他の教会でも続いて起こりました。死者は40名以上で、キリスト者にとって本当に痛ましい時となりました。

私たちは、「このようなことが、なぜ起こるのか？ いつまで起こるのか？」と自問しました。その答えは、カルワリオの丘で最初に殉教されたお方、愛のために愛のうちにご自分の命をささげられたイエズスから与えられました。自分たちが何をしているのか分からないこれらの人たちを、御父がお赦しくくださいますように、また彼らを平和と愛の心へと変えてくださいますように祈りましょう。そしてすべてのキリスト者とすべての平和運動家のために、この度流された血が人間の心の乾いた不毛の地にうるおいをもたらすよう、私たちは祈ります。

エジプトの跣足カルメル修道会は、私たちの兄弟の悲しみと痛みに一致して、全世界のカルメル会にお祈りをお願いいたします。

この時期に、跣足カルメル修道会のザベリオ・カニストラ総長がエジプトの兄弟達に、特別に示してくださった連帯と親密な祈りに感謝申し上げます。

アブナ・パトリック神父 (総長代理)

上野毛教会がさびしくなりました。

桜の花がそろそろ咲き終わろうとする日、ベルナルド神父さまが天のふるさとへと旅立たれました。

ほんとうにたくさんの方が、ベルナルド神父さまを心からお慕いし、敬愛し、親しくご一緒してきました。 私たちは、神父さまがいらっしやらない此処に呆然としてたたずみ、寂しいですねと、行合う人と声を交わします。

教会報 5 月号の最初の頁に、数葉の、それも私たちが普段には目にすることのない神父さまの写真が載りました。 人懐っこい笑顔、おしゃれなシャツと帽子が大変お似合いで、まるでイタリアの映画俳優みたいです。 他の写真もどれもが思わず「神父さま！」と呼びかけて、かけよって、手を差し出したくなるような、ほんとうにいい写真で、泣き笑いしてしまいました。

その横の頁には、福田神父さまの哀悼のお言葉がありました。

これまでの長い長い年月を、日本にあつて多大なご尽力をくださったこと、最期を迎えられる病室での、深々と穏やかなご様子などを伝えてくださる、情愛のこもった心温かな文章を、私は幾度も幾度も読みました。

心の内が切切といっぱいになるのを、どうすることもできません。

ベルナルド神父さまは、とてもまっすぐで、純真なお心をもって私たちに接してくださいました。 知的でハンサムなお顔立ち、ごつごつと優しい大きな手、時に悪戯っ児のような快活な瞳を輝かせ、ユーモアたっぷりのお話をされ、私たちもそして神父さまご自身も、たくさんたくさん愉しんだことでした。

神父さまから伺うお話、父なる神さまのこと主イエズスのことマリアさまのことなどなどは、どう云ったらいいのでしょうか、妙な言い方になるのですが全部がほんとうに思えました。 リアルというのでしょうか、透明というのでしょうか、神父さまご自身が心の底からそう思っておられ、それをほんとうに言っておられるのだということが、心に素直に届き、耳を傾けずにはられないのです。 論理立った考えなどは不要であり、私たちはそれと知らずに自ずと幼子のようになって、聴き入りました。

今あらためて思い知るのです。 数々のあの時、それは何という深い恵みであったかを。

私が初めてお目にかかった頃の神父さまは、40代か50代か、若々しく時には厳しささえうかがえる精悍な雰囲気をお持ちでした。

そして、最後のころの80代の神父さま、91歳の神父さまは、あゝどのような言葉をもって表せばよいのでしょうか。最も大切なものを生涯をかけて、文字通り身をもって体現するということ、他に代えることの不可能なほんとうのかけがえのなさを、身の内に成就するということ、そのことを、ご自身のすべてをもって、私たちに示してくださっていたのだと、そう言うことで言い表すこととなるのでしょうか。

お話を聴くこともそうでしたが、私たちは神父さまの傍にいただけで、十分に満たされ、常に何ものかに包まれていたのです。

告別式の日にお目にかかったお柩の中の神父さまは、ご遺影とともにいつもの慈愛にあふれた神父さまそのままでした。

私事になりますが、私ども家族は神父さまにはとりわけお世話になりました。

長男が高校生の時に洗礼の恵みをいただき、後に結婚に際しては、わざわざ大分の修道院からお越しくださり、結婚ミサを捧げてくださいました。そして夫が神父さまのお導きで洗礼の恵みに浴したことは、私にとってこの上ないよろこびとなりました。

病身のため、お別れに参ることのできない夫と、海外に在住する長男の尽きせぬ思いを託されて、私は白い薔薇の花を、お柩の御顔の傍らにそっと献じました。

✠ ベルナルド神父さま ありがとうございます。

外に出ると、聖堂前の大きな八重桜が花の終わりの輝きをもって、果てのない真っ青な空に映えて、たとえようもなく美しくありました。

ふと、神父さまの声が聞こえるような気がしました。

いのちの言葉 6月

父がわたしをお遣わしになったように、
わたしもあなたがたを遣わす。

(ヨハネ 20・21)

パレスチナへの道中、「神さまがあなたがた一人一人を優しく見守りどれほど愛しておられることか！」と人々に告知知らせるイエスに、弟子たちはつき従いました。

イエスは、ご自分の生きざまを通して御父である神さまを証ししましたが、イエスの使命はそれだけではありませんでした。

すべての人に神さまと出会う道を開き、人々が神さまの愛にあずかれるようにする使命がありました。

イエスが生きておられる間、多くの方がイエスのうちに善意、心の温かさ、威厳に満ちた言葉と行い、誰をも除外しない優しさ、赦しを体験し、希望を目にしましたが、イエスは最後に十字架刑に処せられ、死にました。

イエスが十字架につけられた後、弟子たちは恐怖と不安に襲われ、家に閉じこもってしまいました。

聖ヨハネは、このような背景のもとに、イエスが3日目に復活されたこと、そして、弟子たちに現れ、ご自分が行った^{わざ}業を続けていく使命を彼らに与えられたことを書き記しています。

父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす

このみ言葉をとおして、イエスはあたかも弟子たちにこうっておられるかのようです。

「あなたがたが正義と平和に飢え渴いているとき、私はあなたがたを満たし、社会から排斥されていたときその心と体を癒し、また、貧しい人や異邦人の尊厳を私が擁護したことを思い出さない。

これからは、あなたがたがそれを続ける番です。自分が受けた福音をすべての人に告知知らせなさい。神さまはすべての人と出会い、皆が兄弟姉妹であるよう望んでおられることを告知知らせなさい」と。

人は神さまに創られたものであるがゆえに、他の人とつながっていたいという望みを心の奥底にもっています。あらゆる文化の中にもすでに、共存関係を築こうとする傾向がみられます。でもそうするために、どれほどの労苦と困難を伴うことでしょう！

私たちは日々、自分のもろさを感じ、恐れや疑いによって、互いに裁きあう経験をしています。にもかかわらず神さまは、私たちを信頼し、私たちを招き続けておられます。

皆で兄弟愛を生きるよう告げ知らせる招きを受けた私たちは、それにどう応えればいいのでしょうか？決して一人で出来ることではありません。

そのためにイエスは特別な贈り物を私たちに下さいました。それは聖霊の賜物です。

キアラは次のように言っています。

「洗礼の時与えられた聖霊は、愛と一致の霊ですから、すべての信者と復活されたお方を一つに結び、民族、文化、社会層の違いを越えてお互いを一つにしてください。

私たちを孤立させ、自分と異なる人を排斥し壁を築くのは、私たちの利己主義です。聖霊の声を聞きながら、私たちの中にある分裂の芽を乗り越え、お互いの交わりをもっと成長させましょう」¹と。

今月、私たちも、聖霊の声に耳を傾け、日々の出会いの中で、相手を受け入れ、相手の話を聴き、対話し、勇気づけ、注意を注ぎ、相手の良いところを見つけ、赦しあいましょう。

こうして、イエスの招きを受けた私たちも、彼の業を続けることができるでしょう。

ある仏教の僧侶がロッピーアーノ²に滞在し、そこで福音的な愛に触れたときの経験を話して下さいました。

「私が部屋の外に汚れた靴を置くと、翌朝その靴はきれいになっていました。部屋の外に汚れた服を置いておくと、翌朝その服は洗濯され、アイロンが掛けてありました。また、東南アジアから来た私が寒がりだとわかり、暖房の温度を上げ、毛布をもってきてくれました。ある日「どうしてこんなに親切にして下さるのですか？」と聞く私に、「あなたを愛しているからです」という答えが返ってきました。³

この僧侶との経験がきっかけとなり、フォコラーレの中でも、仏教徒とキリスト教徒の間に深い対話の道が開かれました。

レティツィア・マグリ

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い

関東 6月11日(日) 13:30～ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
(週日に、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 6月11日(日) 14:00～ 瀬戸市みずの坂 サポートハウスゆうや

長崎 6月25日(日) 11:00～ カトリック浦上教会 要理教室

連絡先:フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: coni1157ch1.wix.com/focolare-jp

¹ キアラ・ルービック「いのちの言葉」1994年6月、チッタノーバ誌 1993/24 p.34

² イタリアのフィレンツェ近郊にあるフォコラーレ運動の町の名前

³ キアラ・ルービックのスピーチ「諸宗教対話と私の体験」、1998年11月13日、ドイツ(アーヘン)にて、参照

新刊案内

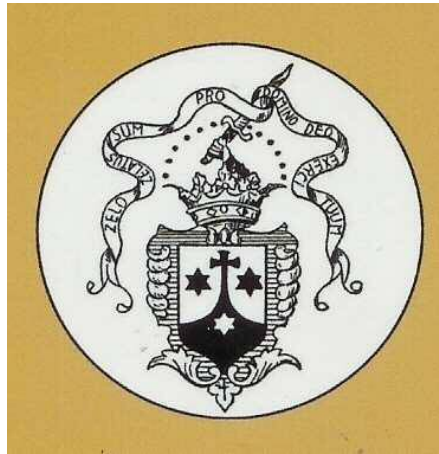
三位一体の聖エリザベツト
いのちの泉の
ほとりにて

伊従信子



ドン・ボスコ新書

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛靈性センター 2017年4月～2018年3月

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

1. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2017年12月24日(日)～25日(月)朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2017年

5/12(金)、5/25(木)、6/22(木)、6/30(金)、7/7(金)、
7/20(木)、9/21(木)、10/27(金)、11/10(金)、11/30(木)
12/7(木)、12/22(金)

2018年

1/11(木)、1/26(金)、2/8(木)、2/23(金)、3/8(木)、3/23
(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉獻生活者のための黙想会

2017年

8月 1日(火) 17時～	8月10日(木) 朝	福田正範神父
8月16日(水) 17時～	8月25日(金) 朝	福田正範神父
12月27日(水) 17時～	2018年1月5日(金) 朝	福田正範神父

4. 奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2017年

10月10日(火) 17時～	10月19日(木) 朝	福田正範神父
----------------	-------------	--------

5. 青年黙想会(男女) 35歳位まで

2018年

2月10日(土) 16時～12日(月) 16時

カルメル会士

6. 召命黙想会(男女) 40歳位まで

2017年

11月3日(金) 16時～5日(日) 16時

カルメル会士

7. 特別黙想会 S r. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2017年

12月8日(金) 20時～10日(日) 16時

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いづれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

[Tel:03-5706-7355](tel:03-5706-7355) Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

*****日帰り黙想会*****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことは☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時~ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：	2017年	6月22日(木)	午後1時30分~午後4時
		6月30日(金)	〃
		7月7日(金)	〃
		7月20日(木)	〃
		9月21日(木)	〃
		10月27日(金)	〃



お問合せ・お申込み+

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

2017年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)	7月22日(土)～23日(日) 10月7日(土)～8日(日)	ロザリオの道：キリスト者の歩み テレーズと共に生きる	中川博道神父 中川博道神父
-----------------------	-----------------------------------	-------------------------------	------------------

【聖書深読黙想会】

(午前10時～午後4時)	7月1日(土) 9月23日(土) 11月25日(土)		中川博道神父 中川博道神父 中川博道神父
--------------	----------------------------------	--	----------------------------

【水曜の黙想】

(午前10時～午後4時)	6月7日(水) 7月5日(水) 9月6日(水) 10月18日(水) 11月29日(水) 12月13日(水)	食べられる者となった神 三位一体の聖エリザベトの祈り 嵐の中で試される信仰 ロザリオを生きる 「ラウダート・シ」を生きる 三位一体の聖エリザベトと三位一体の神	中川博道神父 九里彰神父 Sr.ロサ 中川博道神父 中川博道神父 九里彰神父
--------------	--	--	---

【一般のためのカルメルの霊性セミナー】

(午後5時～午後4時)	10月14日(土)～16日(月)	イエスと出会う聖テレジア「自叙伝」	中川博道神父
-------------	------------------	-------------------	--------

【聖テレーズの黙想】

(午後5時～午後4時)	9月30日(土)～10月1日(日)		中川博道神父
-------------	-------------------	--	--------

【特別黙想会—三位一体の聖エリザベトの祈り—】

・ 1泊2日 (午後4時半～午後4時)	12月9日(土)～10日(日)	三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘	九里彰神父
------------------------	-----------------	--------------------	-------

【社会人(働いている人)のための霊的同伴】

・ 1泊2E (金)夕食なし (午後8時～午後3時)	6月2日(金)～3日(土) 7月7日(金)～8日(土)	9月1日(金)～2日(土) 11月24日(金)～25日(土)	九里彰神父
-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	-------

【青年の集いin Uji】

(午前10時～午後4時半)	6月4日(日) 11月3日(金)	『ピンチの時は注意深く』	中川博道神父 中川博道神父
---------------	---------------------	--------------	------------------

【待降節の黙想】

(午後5時～午後4時)	12月2日(土)～3日(日)	受肉の神秘	九里彰神父
-------------	----------------	-------	-------

【奉献生活者の黙想】

(午後5時～午前9時)	8月7日(月)～16日(水) 8月18日(金)～27日(土) 11月7日(火)～16日(木) 12月27日(水)～1月5日(金)		中川博道神父 九里彰神父 中川博道神父 九里彰神父
-------------	---	--	------------------------------------

【English Retreat】

(10am to 4pm)	6月10日(土) 11月18日(土)	A day with St. Therese A pilgrimage to Jerusalem with Magi	Sr. Rosa Sr. Rosa
---------------	-----------------------	---	----------------------

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
12月24日(日)～12月25日(月) {講話なし、各食事つき}

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

《2017年 名古屋一日静修》

三位一体の聖エリザベトの祈り

— 現代人へのメッセージ —

7月17日（月）午前10時～午後4時

講師 松田浩一師

「父と子と聖霊の唯一の神を信じて生きる」

場所 カトリック日比野教会 信徒会館

（地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分）

参加費 1000円

持ち物 聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当

申込み 下記いずれかの方法でお申込み下さい。

FAX / 0568 - 62 - 5167

-mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp

ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26

「名古屋一日静修」係り



2017年度日程と講師「テーマ」

- ✧ 5月20日（土）須沢かおり氏
「わたしは、光へ、愛へ、命へ行きます」
- ✧ 7月17日（月）松田浩一神父
「父と子と聖霊の唯一の神を信じて生きる
—三位一体のエリザベトと共に—」
- ✧ 9月23日（土）片山はるひ氏
「エリザベトと共に生きる
—永遠の光のもとで—」
- ✧ 11月25日（土）Sr. ポーリン・フェルナンデス
「三位一体のエリザベトによる
『聖書に基づくキリスト中心の生活』」

《特別黙想会》

日時：2017年12/9（土）16時半受付～翌日16時

「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」

指導司祭：九里彰神父

申込み：宇治聖テレジア修道院（黙想）

Tel：0774-32-7456 Fax：0774-32-7457

プログラム

- 9：45 受付
- 10：00 導入の祈り（聖堂）
- 10：20 第一講話（信徒会館）
- 11：30 念 禱 *
- 12：00 昼 食（信徒会館）
- 12：30 念 禱 *
- 13：00 第二講話
- 14：00 念 禱
- 14：30 ミ サ（聖堂）
- 15：30 茶話会（信徒会館）
- 16：00 終了の祈り

*希望者は赦しの秘跡または面接を受ける事ができます

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2017年予定

T1	03/12 (日) -03/18 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
K2	03/27 (日) -04/01 (土)	東京小金井・聖霊会
N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	06/11 (日) -06/17 (土)	東京小金井・聖霊会
T2	07/02 (日) -07/08 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
T3	09/03 (日) -09/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	11/05 (日) -11/11 (土)	東京小金井・聖霊会
T4	12/03 (日) -12/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ

2018年予定

K1	05/06 (日) -05/12 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	10/07 (日) -10/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム

真命山

祈りの集い

年間のテーマ

山上の教え

2017



年度行事のご案内

祈りの集い(10時?15:00時)

- 1月12日 幸せの道・イエスの山上の垂訓 (マタイ5:7)
- 2月9日 心の貧しい人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5:3)
- 3月9日 柔和な人々は、幸せである、その人たちは地を受け継ぐ。(マタイ5:4)
- 4月20日 悲しむ人々は、幸せである、その人たちは慰められる。(マタイ5:5)
- 5月11日 義に飢え渴く人々は、幸せである、その人たちは満たされる。(マタイ5:6)
- 6月8日 憐れみ深い人々は、幸せである、その人たちは憐れみを受ける。(マタイ5:7)
- 7月13日 心の清い人々は、幸せである、その人たちは神を見る。(マタイ5:8)
- 8月 休み
- 9月14日 平和を実現する人々は、幸せである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5:9)
- 10月12日 義のために迫害される人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5:10)
- 11月9日 幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人たちである。(ルカ11:27? 28)
- 12月14日 見ないのに信ずる者は、幸いである。(ヨハネ20:29)

指導者 ロック 神父

? 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻湍1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内 2017年～2018年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2017年度:理性と神認識ー古代と中世において
夏学期:5/6、5/27、6/3、6/10、6/17
6/24、7/1、7/8、9/2、9/9、9/16

●神学読書会

第2・第4木曜日:18時-20時
上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と神学に関する文章を読んで、話し合います。4月27日から。但し祝日、8月全体は休み。

・ミサ:上記読書会後20時-20時45分 クルトウルハイム1F右聖テレジア小聖堂どなたでも。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分-20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
4月25日から。但し祝日、8月全体は休み。
・「通う霊草」8月26日(土)-9月3日(日)18時-20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」

11月11日(土)-12日(日)(上石神井)、2018年3月17日(土)-18日(日)(上石神井)、1泊2日。申込の締切りは、初日の10日前。
[関西] 9月30日(土)13時30分-10月1日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分-16時 上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。講話、黙想、ミサがあります。
2017年
7月22日、9月16日、10月14日、11月25日、
2018年
1月20日、2月17日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分-16時50分

●坐禅会

・第1、第3月曜日:18時00分-20時00分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。2回坐り、間に講話。(5月15日から。但し祝日、8月全体、12月25日は休み)

●坐禅接心

8月12日(土) 20時20分-16日(水) 8時30分
11月1日(水) 20時20分-5日(日) 8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。
[関西]
7月30日(日)17時45分-8月5日(土)15時。
宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時-18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
4月22日(土)、6月24日(土)、10月21日(土)
2018年1月27日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2017-18年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 6/02 内なる神—その「似姿」としての人間
 6/09 新約聖書の神理解—主なる父
 6/16 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
 6/23 救い主の役割—人類の待望
 6/30 神の国—イエスの告げるメッセージ
 7/07 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
 7/14 イエスのたとえ話—神の働きを語る
 7/21 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
 7/28 イエスは誰か—イエスの自己理解
 7/29 ◆感謝のミサ(15時、上智大学内
 クルトウルハイム2階聖堂、定員80人)
 8/04,11,18,25 ○休み
 8/26-9/03 ●通う霊操(18時-20時45分)
 (上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
 9/01 イエスの死—その救済的意義
 (上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
 9/08 聖書のイエス像—ヨハネとパウロの見た
 イエス
 9/15 イエスの復活—今に生きるイエス
 9/22 聖霊—神の愛に導かれる
 9/29 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
 10/06:洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
 10/13:教会の成立と意味—イエスを中心に集う
 10/20:人間としてのイエス—新しい人間像の基礎づけ
 10/27:御子としてのイエス—神との関係
 11/10:父と子と聖霊—神の生命に与る
 11/11-12:●黙想会(上石神井)
 11/17:信仰の決断—支えられて生きる
 11/24:ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
 12/01:自己実現と神の意志—生き方の規範
 12/08:人間の弱さ—罪とは何か
 12/15:恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
 12/22:愛の心—キリスト教の本質

キリスト教理解講座 2017-18年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [人生の基礎づけ]
 6/6 創造・歴史・救い—イエスという中心
 [倫理的行為]
 6/20 行為の規範—人間らしさと神の呼びかけ
 7/4 自己実現—責任と自由
 7/18 性格の形成—自己受容と善への憧れ
 7/29 ◆感謝のミサ(15時、上智大学内
 クルトウルハイム2階聖堂、定員80人)
 8/1,15 ○休み
 8/26-9/03 ●通う霊操(18時-20時45分)
 (上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
 9/5 人間の弱さ—罪とゆるし
 9/19 有意義に生きる基盤—信仰と希望
 10/03:[根本的態度]
 唯一の掬—愛による完成
 10/17:基本的な徳—判断力・勇気・節制
 11/07:共同存在—共通善・正義・奉仕
 11/11-12:●黙想会(上石神井)
 11/21:個人の道—自己の課題と聖霊の導き
 12/05:対人関係と友愛—恵みである他者
 12/19:身体と生命—性と倫理

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056



講話と祈りの集い

四ツ谷 Week End Emao
上智大学 2号館1階 カトリックセンター

6月24日(土)

テーマ：第14章「聖霊に遣わされて」

7月22日(土)

テーマ：第2章「聖三位の交わりのうちに」

午後2時～午後5時30分

担当 片山はるひ

講話・祈り・質問・分かち合い

参加費無料

毎回、テキスト『神と親しく生きるいのりの道
幼きイエスのマリー・エウジェヌ師とともに』

（聖母文庫 本体500円＋税）を用いて、
講話をすすめています



※今回は上石神井での集いはございません。

また、8月は上石神井、四ツ谷の集い共にお休みです。

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

『片山はるひ宛』でお願いします。

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com



サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・・開始日の8日前で締切ります

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
サダナ I	6/15(木) 17:30- 18(日)16:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖母 修道院 (練馬区上石神井)	来間(くるま)裕美子※ Tel.090-5325-2518 045-577-0740
入門C	6/25(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
サダナ I	7/14(金) 17:30- 17(月)16:00	Fr植栗	女子御受難会修道院 (宝塚市)	上田正美 Tel.090-5651-6495
フォローアップ	9/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま)裕美子※
サダナ II	9/14(木) 17:30- 18(日)16:00	Frマルコ・ アントニオ Fr植栗	ラ・サール会仙台修道 院 (仙台市宮城野区)	松本由美子 Tel.070-6950-4199
入門 A	10/1(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま)裕美子※
宝塚リピー ターの会	10/6(金) 17:30- 9(月)16:00	Fr植栗	女子御受難会修道院 (宝塚市)	上田正美
サダナ I	10/26(木) 17:30- 29(月)16:00	Fr植栗	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク Tel.082-239-0034

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門A. B. C)

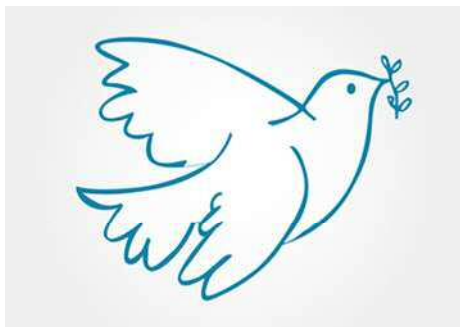
体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ Iを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2017年 5月 6日(土)～ 5月14日(日)
- ② 8月14日(月)～ 8月22日(火)
- ③ 10月 9日(月)～ 10月17日(火)
- ④ 12月27日(水)～ 2018年1月 4日(木)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2017年 2月 3日(金)～ 2月5日(日)
- ② 2月24日(金)～ 2月26日(日)
- ③ 3月17日(金)～ 3月19日(日)
- ④ 6月16日(金)～ 6月18日(日)
- ⑤ 7月14日(金)～ 7月16日(日)
- ⑥ 9月15日(金)～ 9月17日(日)
- ⑦ 11月17日(金)～11月19日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2017年 5月30日(火)～6月7日(水) 阿部 仲麻呂 師 (サジゴ会)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、 ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

希望への道

2017年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	4月22日(土)～23日(日)	なぜそのようなことがあり得でしょうか。	山内十束師(ご受難会)
2	6月10日(土)～11日(日)	おことばのとおり、この身になりますように。	山内十束師(ご受難会)
3	11月11日(土)～12日(日)	神は卑しいはしためを顧みられた。	山内十束師(ご受難会)
4	2月17日(土)～18日(日)	心に納めて、思い巡らす。	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

希望への道

—おことばのとおり、この身になりますように—

2017年度 第2回 女子青年黙想会

日時： 6月10日(土) 15:00～

11日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2017年6月4日(日)まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

【2016年予定】

—12月15日(木)『霊の賛歌』第5回目：第3の歌— 終了

【2017年予定】

—1月19日(木)『霊の賛歌』第6回目：第4～5の歌— 終了

—3月16日(木)『霊の賛歌』第7回目：第6の歌— 終了

—5月25日(木)『霊の賛歌』第8回目：第7の歌— 終了

7月20日(木)『霊の賛歌』第9回目：第8の歌

9月21日(木)『霊の賛歌』第10回目：第9の歌

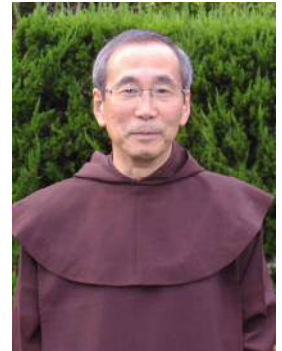
11月16日(木)『霊の賛歌』第11回目：第10の歌

12月21日(木)『霊の賛歌』第12回目：第11の歌

* 参加費無料（献金歓迎）

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



<<特別黙想会>>

日時：2017年12月16日(土) 4時半受付～17日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」

指導司祭：九里彰神父

申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」の編集、印刷、製本、発送等の経費は、すべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

「私は道であり、真理であり、命である。私を通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」（ヨハ 14・6）。

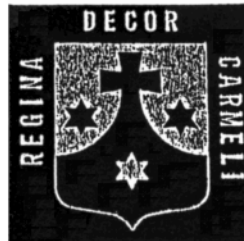
先月、大失態を犯してしまった。宇治修道院から新しい福知山教会に初めてミサに行った時のことである。カーナビに電話番号を入れ、美しい春の丹後の山々を眺めながら、ルンルン気分で車を飛ばした。ところが、着いた所には教会らしき建物は一切ない。カーナビは、古い福知山教会へと案内してくれた模様である。住所を入れようとしたが、「福知山市中心街」までしか入らず、途方に暮れていると、年配の方が通りかかる。尋ねると、親切に高速道路を越えた山の方にあると教えてくださった。それに従い、山の方へ登っていくと、プロテスタントの福知山教会に着いてしまった。頭を抱えていると、携帯電話が鳴り、福知山教会の人とつながる。その案内で何とか、目的地にたどり着くことができた。

信仰の世界も同じであろう。「道、真理、命である」キリストをよく知らないと、目的地である父の所（天国）にはたどり着くことができない。いずれにせよ、道は出発前によくよく調べて、迷わないよう心がけたいものである。

《訂正とお詫び》

先月号の「編集後記」で、『カルメル靈性センターニュース』の拠点の移行は、「新管区長の意向」と書きましたが、正確には「顧問会の決定による」と記すべきでした。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

(P.九里)



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本/発送を、来月より宇治修道院で行うことになりました。作業はホチキス綴じと購入者の方々への発送です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

7月号の製本/発送日 **6月30日(金) 午前9時半頃から**
宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越してください。

霊性センター事務局 ☎0774・32・7456